



岡山市立岡輝中学校 学校通信 第12号
 発行者 岡山市北区岡町12-17 花房 朋子
 発行日 令和5年 1月 23日(月)

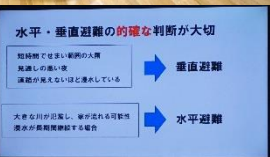
3学期スタート!3年生、受験目前!

新年を迎えてもコロナの感染再拡大が懸念されている状況ではありますが、ありがたいことに岡輝中学校は大きな混乱もなく、3学期・本年のスタートを切ることができました。今週末には、3年生は私立1期入試を控えています。このまま元気に入試を迎えられるよう、学校では様々なことに留意しながら過ごしていきたいと思っております。1,2年生も応戦しています!1月12日(木)には、面接指導が行われました。3年生は学年の先生方の指導の下、11月から面接練習を行ってきていました。今回は、学年外の先生はもちろん、岡輝中学校区学校運営協議会のメンバーの方々にもご協力頂き、本番さながらの面接練習を行いました。今までと違う面接官に緊張したことと思います。きっと、ここでの練習が本番に活かされるはずですよ。自信を持ってください。また、文化発表会後に開設された進路部屋では、毎日多くの方が放課後学習の取り組みをしています。黙々と問題に取り組んだり、先生に教えてもらったりしています。何よりも嬉しいのが、互いに聞き合ったり、教え合ったりしている姿が見えるところです。こんなところからも、日頃の協同学習が活かされているというのがよく分かります。岡輝中、素晴らしい!!頑張れ、3年生!!



避難訓練!垂直避難

1月20日(金)、今年度3回目となる避難訓練がありました。今回は、津波や大雨・洪水などによる水害が起こったことを想定した訓練を行いました。災害の発生を想定して、岡輝中学校で一番高く、安全な南・西館の4階に避難しました。岡山市ハザードマップによると、岡輝中学校区でも浸水の被害が起こる可能性があります。またこの先、水害が多い地域や津波の被害を受ける可能性が高い地域に行ったり、暮らしたりすることもあるかもしれません。このような訓練を経験することは、必ず必要です。



教えて見せて校長先生の玉手箱!

1月19日(木)、PTA学年委員主催の「教えて見せて校長先生の玉手箱!」(旧:「校長先生と語る会」)が行われました。校長先生が得意のプレゼンテーションを駆使して、今年度の学校や行事の様子について紹介されました。参加した方達からは「修学旅行はこんないいところに宿泊してたんですね」「学校でそんな取組をしていたんですね」「校長先生からの挑戦状でもらった缶バッジ、すごく嬉しいみたいです!」等の声が聞かれ、情報交換ができたとても有意義の時間になりました。PTA3学年委員のみなさん、お世話になりました!



「立志式」と「成人式」

今年は1月9日(祝・月)、が成人の日でしたが、岡山市では、1月8日(日)に「岡山市二十歳の集い」、いわゆる「成人式」が行われました。民法の改正で令和4年4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられて初めての成人の日でした。ニュースでも成人の様子が取り上げられていましたが、晴れやかな姿でこの日を迎えている様子は、見ていて嬉しくなりました。岡輝中出身の多くの先輩達も、この日を迎えられることと思います。実は、今年の岡山市二十歳の集いの実行委員長を務めていた男性は、かつて私が担任した生徒です。シティーライトスタジアムで多くの人の前で堂々とあいさつしている姿は、成長を感じずにはいられなくなり涙が溢れました。

ところで、みなさんは「立志式」という言葉を聞いたことがありますか。「立志式」とは、14歳になった人を祝う式のことです。地域や学校によっては今でも「立志式」を行っているところがあります。「成人式」と「立志式」、関係ないじゃないかと思うかもしれませんが、そうではありません。もともと「立志式」とは、武士社会で行われていた「元服」(女子でいえば「裳着」)にちなんで行われるようになったものとされていて、「成人式」の元となった式なのです。

「元服」とは…平安時代以降に行われた男子の成人式。男子が成人したことを示すために行われ、大人の服に改め、角髪と呼ばれる子どもの髪型を改めて大人の髪を結び、冠をつける。また、それまでの幼名(例:徳川家の竹千代や伊達政宗の梵天丸)を廃して、烏帽子名(元服名・実名)を新たにつける。



こんなことを聞いたことがあります。150年程前の江戸時代や明治時代の日本では、14歳が大人と子どもの境目。14歳になれば一人前の大人として見られるもの。そして、元服を向かえた子ども達は、父親から二つのものを与えられる。一つ目は『氏』(私で言うと「花房」です)。この日より、名字を名乗ってもよいということ。逆に、名字を名乗ると言うことは、その一族の名を背負うということ。家族はもちろん、その名字の一族の名を汚すようなことをしてはいけませんよ、という、大切な意味があるのです。そして、二つ目は『刀』。これは、敵と戦える年齢になったからということではなく、14歳にもなれば、自分がやったことには責任を持つもので、その責任を取るときにその『刀』を使いなさい、すなわち「自分で腹を切りなさい」=「自分のやったことには責任を持ちなさい」という意味です。そして、この二つのものが与えられるためには、色々なことで自分を鍛え上げることが必要です。体はもちろん、心もです。鍛えられていない人は、わがままな人間になります。そして、わがままな人間になるとどうなるかということ、その周りの人々、家族、学校の仲間、先生、そして、社会全体が迷惑をするということです。考えてみれば当たり前のごとくですね。『成人の日』は、1948年公布・施行の祝日法により「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日」という趣旨のもと制定された法律です。令和4年からはその年齢が、18歳になりました。武士者の14歳と現代の18歳。時代は違えど、同じ「大人」を自覚する年齢です。さて、現代の18歳に大人の自覚は持てているでしょうか。成人の日会場や街中で騒いだり、暴走行為をしたりして公務執行妨害で逮捕者が出た自治体もあります。また、親に援助をせがんで自立を先延ばしにする人もいます。もちろん、大半の成人が目標に向かって努力をし、立派に大人の自覚を持って生きています。でも、まだまだ、「大人」を自覚していない人がいるのも事実です。数年後、みなさんはどんなに成長して成人の日を迎えるのでしょうか。

ところで、みなさんは今の自分に『氏』と『刀』の二つが与えられても大丈夫でしょうか。確かに時代は移り変わってきていますが、つい150年程前までは、14歳はこのような大きな意味のある節目の年齢だったのです。